

# 福祉や災害など暮らしにかかわる発言相次ぐ 市議会主催の議会報告会・意見交換会

12日、市議会主催の議会報告会・意見交換会に行ってきました。会場は柿崎地区公民館。市民の皆さんの参加は15人ほどでした。

参加した市民からは、「長野、石川などと比べるとこの上越は観光の目玉がないと思う。どう考えるか」「福島の子どもの災害で避難してきた子どもたち、短期間の保育園入園はダメなことだったが、もっとゆるやかにできないか」「子どもの貧困化がもっと進むのではないか。上越市の実態を把握しているか」「柿崎区に住宅団地造れないか。(中心部だけでなく)まわりが栄える施策を打ち出してほしい」などの質問や要望が出ていました。

今回は9月議会報告が中心でした。全体的な報告は副議長がパワーポイントを使って行い、4つの常任委員会報告を所属議員が行いました。パワーポイントによる報告はこれまでよりもぐんとわかりやすくなっていましたね。ただ、行政の報告ではありませんので、

市民の立場でどうチェックをしたかなど議会としての視点をもう少し意識してもいいのではないかと思いました。

## 日本共産党議員団も報告会開催

日本共産党議員団主催の市政報告会が17日、大島地区公民館で、19日は市民プラザで行われました。このうち大島地区公民館での会(写真下)は開会30分ほど前から激しい雨降りとなりました。それでも6人の方が参加してくださいました。

少人数の時はじっくり懇談できるのがいいですね。この日は中山間地でどう生きていくか、(仮称)厚生産業会館建設をどう見るか、空き家対策をどうするか、戦争法廃止の展望などで活発な意見交換ができました。

参加者からは「旧町村時代のほのぼのとしたイベントがやれなくなった」「東北震災の直後、娘婿が現地へ仕事で出かけることにな

った。あのときもどうか無事で帰ってきてと思ったが、いざ戦争となるとまずこの人が行くことになるのではないかと。絶対に戦争はしてほしくない」「地域にもっと血の通った行政を、暖かい行政だと実感できる政治に」などの声が出されました。

## 市民プラザでもハッピーカフェ

食育フォーラムが14日、市民プラザ行われ、そこで吉川



【ベニバナボロギク】キク科の一年草です。漢字で「紅花檻樓菊」と書きます。花は筒状で、先端部分が赤くなっています。真ん中の白いのは花が終わった後の綿毛です。清里区梨窪地内にて16日、撮影しました。

高等特別支援学校がハッピーカフェを開催しました。

この日、市民プラザはまっすぐに歩けないほどすごい混みようでした。カフェでもそう、生徒たちは忙しいそうでした。でも、生徒たちはとても生き生きと動いていて、うれしくなりました。私はカップチーノを注文し、ご馳走になりました。



晴れた日の米山とハクチョウです。吉川区竹直にある水が張られた田んぼでハクチョウたちが気持ちよさそうにしていました。12日、撮影しました。

# はしづめ法一の活動レポート

No.1733 2015.11.22

発行編集 日本共産党前上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628  
通じないときは 090-5392-1961  
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一 検索

# 春よ来い

## 第三八一回

## 義母とともに

一〇月下旬の日曜日、夕方になってから柏崎市にある妻の実家へ出かけてきました。日が短くなり、着いたときにはすでに日は落ちていました。この日、妻は義兄と居間で話をし、私は義母の部屋でお茶飲みをするというめずらしい展開になりました。

柏崎へ行った時はたいがい、妻は義母と話をしています。積もり積もった話があるのでしょうね、途切れなく話は続き、私の方で、「そろそろ帰るぞ」と言わないと終わらないくらいです。

ところがこの日、妻は母親の顔を見ることもなく、最初に入った居間で義兄と田んぼや自分の子どもなどの話に夢中になっていました。話の詳しいところはほとんど私の耳に入ってきてませんでした。時どき、笑い声が隣の義母の部屋まで聞こえてきました。居間と義母の部屋とは障子戸を開ければ、ものをやり取りできます。あまりにも楽しそうに雰囲気だったので、気になったのでしよう、義母がその戸を開けて、妻と義兄のおしゃべりの様子を見ていました。この時の義母の微笑みはなんとも言えない、いい感じでした。

私は普段、柏崎へ行っても横になって眠らせてもらうことが多く、義母と話し込むようなことはないのですが、この日は別でした。義母の部屋に入りっぱなしになり、いつもと違ってたくさん話をしました。私たち夫婦が訪ねたのに、義母を一人にするのは申し訳ない気がしましたし、私も話をしたいと思っていました。

義母はギョツ、ギョツ、ギョツという音を立てるコーヒーマーカーを使ってコーヒを出してくれ、コタツの台の上にある、動物の形をした昔からの菓子を用意してくれました。妻と義兄の話が長引いたおかげで、私は懐かしい味を楽しみながら、義母から興味深い話をいくつも聞くことができました。

その話のひとつは「おびや明け」などお産の話です。義母は、男の子を産んだときの「おびや明け」はお産の日を含めて何日目になるということから始めて、自らが経験した昭和二〇年代の「お産」にかかわる苦労をたくさんと語ってくれました。

義母は、「昔は子どもを産むまで（妊婦は）動き、働いていたが、いったん産むとおびやが明けるまで、『ねたきり』になったもんだ」と言いました。お産間近まで動いていたという話は子ども時代から何度か聞いたことがありますが、産後のおびや明けまでの様子について、「ねたきり」という言葉を使っていたのは初めてでした。

「ねたきり」の程度にもよりますが、「ねたきり」ということになれば、炊事から洗濯までその期間は誰かにやってもらうことになります。義母が嫁いだ家には姑はおりました。それでどうしたかという、隣の親戚の同年代のお母さんとお互いに助け合いながらおびや明けまで乗り切ったということでした。ちょうどお産の時期も重なることがなかったのでしょうか。それにしても、女衆はたくましいですね。こういうところでも隣近所で助け合いをしていたとはびっくりでした。

産後は朝昼晩の飯だけでなく「こぼり」（「こびり」のこと）も食べたそうです。義母は、連れ合いに食べさせてくれと頼んだそうですが、「とうちゃんも新聞ばかり読んでいて、だめだった」と言って笑いました。何かに集中すると、話しても耳に入らなくなってしまう人だったのでしよう。

偶然とはいえ、いつもと違った展開となったおかげで、戦後の苦労などを知ることができ、義母がぐんと身近になりました。次回はどんな話をしてくれるのか楽しみですね。

## 東京吉川会、30代の青年も参加

東京吉川会は15日、JR四ツ谷駅近くのスクワール麹町にて行われました。参加者はこちらからの参加者を含め約90人でした。父親が川谷出身の30代青年も参加してくれました。

総会では平山勇会長が酒まつりで

### 上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	11月11日(水)	11月18日(水)
上越南消防署	0.047	0.050
上越北消防署	0.050	0.053
新井消防署	0.050	0.043
頸北消防署	0.057	0.053
頸南消防署	0.047	0.057
東頸消防署	0.050	0.043
高士分遣所	0.047	0.043
名立分遣所	0.057	0.050

の故郷訪問などについて紹介、ふるさとを共有する人たちの交流の大切さを訴える挨拶をしました。

来賓で挨拶したのは上越市の関原貢副市長とまちづくり吉川の加藤大助会長。関原副市長は北陸新幹線開業後、

上越妙高駅が関西から東北などへ旅行する人たちの中継地点の役割を果たしていること、NHKのごきげん歌謡笑劇団の収録が上越市で行われたこと、(株)杜氏の郷のお酒が各種コンクールで入賞していることなどを紹介し、アピールしました。また加藤会長は、まちづくり吉川が各種イベントを担い、頑張っている様子を伝えました。

懇親会は細金八重子(千歳柳扇)さんの日本舞踊でスタート、常山哲夫吉川区総合事務所



長の乾杯で賑やかに交流しました。私は、すっかり顔なじみになった吉川区尾神、代石、小苗代、原之町、国田、稲古、川谷、石谷などの出身の方とふるさとの様子、家族の様子などを語り合いました。山直海(村屋)出身のTさんは、毎日、私のブログを見てくださる人の一人ですが、この日は私が用意していた活動レポートをまわりの人に配布してくださいました。たっぷり話し合っ、最後は「故郷」の大合唱、今回もいい会になりました。

(写真は壇上で「故郷」を合唱する人たちです)